



# 二十六聖人

令和2年11月号

(令和2年10月25日発行)

教会だより

2020. 11 No. 330

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296  
<http://www.futamatagawa-cc.com/>  
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

## 命のつながり

もう11月になって、教会は「死者の月」を迎えています。今月は、私たちに先だって神様に召されて、神様のもとに帰って行ったすべての死者のために祈る月です。どうか、亡くなられた方々に神様からの永遠の命と安らぎが与えられるよう、また、ご遺族の方々にも豊かな慰めと恵みが与えられるよう、お祈り致します。

この巻頭言を書くにあたり、ある信者さんのことが私の頭をよぎり、今月はそれを語らせていただきたいと思います。彼は独り暮らしのお年寄りの方で、私は毎月一回、ご自宅で彼に会い、一緒に祈ったり、ご聖体を授けたりしました。目が見えなくなって何も見えないし、しかも、長い間の病気で動けなくなった彼は、ヘルパーさんに世話をしてもらっていました。そして、去年のある日、結局、体の調子が悪くなった彼は病院へ運ばれ入院することになり、その後、ある施設に移されました。残念ながら、その病院での出会いが私と彼の最後の出会いになりました。それから私は彼がどこにおられるのか、どのように過ごされているのかが気になって色々調べましたが、個人情報だという理由で、彼の居場所を把握することができませんでした。そして、最近、彼が亡くなられたことを知り、私は心がとても痛みました。美空ひばりの歌が好きで、目が見えなくなる前には絵が好きだった彼は、どこの施設か分かりませんが、そこで静かに神様に抱えられました。しかし、私は彼が毎月、病者の秘跡に与ったので、常にイエス様の愛に留まっていて、今は神様の国で永遠の命に与っているのを確信しています。

教会とはイエス様の聖なる犠牲によって神様と繋がっている人たちの集いだと言えます。ここで私たちは、ミサや他の秘跡を通してその絆を固め、皆がその絆の上で互いに支え合い、愛し合うのです。言い換えれば、教会とは神様から頂いた命の繋がり、その絆の現場なのです。生きていても、死んだとしても、私たちはその命のつながりのうちにあるのです。新型コロナウイルスのために、多くの人々が命を失い、また、まだ苦しんでいる人たちも多いです。皆で集まることもできないし、寂しい日々が流れていますが、私たちは常にイエス様の命に繋がっていることは変わりません。月一回のミサにだけしか与れない現実ですが、それも神様の愛の賜物でしょう。死者の月を迎えて、亡くなられた方々のために祈ることは勿論、互いのために祈ることの大事さを、改めて心に込めて、今月を過ごしたいと思います。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

【司祭】

二俣川教会のコロナ禍でのミサ準備は他の小教区に比べて厳しい対策となっています。この厳しい対策が早く終わる事を願っていますが、信者の皆さんが安全にミサに与るためには、止むを得ない事だとも思っています。ただ何時までかが見えない状況下では皆が心を込めて、気持ちを一つにしなければなりません。一致と言うことはそのような事を指すという事でもあります。この事は、コロナ禍でのメッセージではないかと思えます。

『10月以降地区別ミサについて』

- ・「公開ミサ対策チーム」に教会委員を派遣し対策チームのメンバー増を図ります。  
\*「公開ミサ対策チーム」とは、  
地区別ミサのために奉仕頂いている地区奉仕者の方達のサポートを行います。  
今後のチーム構成は「常任委員、教会委員、地区連絡室、事務所」で構成されます。
- ・待降節の週から、ミサ参加者を1地区から2地区合同とし、ミサの参加人数を増やす事を検討します。
- ・物販に関して：状況が改善されるまでは、教会での物販は自粛継続と致します。但し、今まで取り纏めをして注文していた物や、注文期間が限定された購読物に関しては「今週のお知らせ」に掲載し継続致します。（教会の祈り、毎日のミサ等々です。）

【各委員会報告】

（典礼委員会）

- ・11月は死者の月です。10月31日～11月30日の1か月間、この1年で帰天された方の名前を聖堂のマリア像前に掲示致します。

（教会学校）

- ・9月27日「教会学校と青年と共に捧げるミサ」が執り行われ、教会学校から10名と保護者の参加がありました。ミサ後に初聖体勉強を実施しました。
- ・10月11日（日）14時：初聖体勉強
- ・10月25日（日）14時：「教会学校と青年と共に捧げるミサ」、ミサ後に初聖体勉強

（キリスト教講座）

- ・カトリック通信講座受講者は1名。2021年受洗を目指しています。

（インターファミリーグループ）

- ・LINEにてインターの皆さんに様子伺いの発信をしています。  
藤沢教会のベトナム語ミサに参加しているご家族の事、また幼児のいるご家族は密を避けるためにミサに来られない事などの話を聞く事が出来ました。「教会学校と青年と共に捧げるミサ」が行われている事などの発信を地道に行って参ります。

\*\*\*\*\*

<キリスト教講座からのお詫び>

先月号の「教会委員会報告」（キリスト教講座）で『堅信の勉強会を開いています』とお知らせ致しましたが、これから堅信を受ける方ではなく、ヘルパーの為の勉強会の意味でした。お詫び致しますと共に、お間違えのないようお願い致します。

## 一粒会だより

一粒会は「小さな粒を毎日一粒ずつ貯えていき、行いを長続きさせる」という事を考え命名され、祈りと献金が始まりました。横浜教区では1942年に一粒会が発足し、「会員の精神的ならびに物質的一粒を結集して、横浜教区関係の司祭の召命とその成聖に寄与すること」を目的に活動を続けて、現在に至っています。

2020年3月からのコロナ禍、「横浜教区一粒会」は春の本部委員会中止、秋の一粒会大会中止等、活動を自粛せざるを得ない状況ですが、その様な中であっても司祭叙階、助祭叙階と大きなお恵みを頂きました。

### 『司祭叙階』

アシジのフランシスコ 祖父江 優太 助祭 3月20日（磐田教会出身）  
 ライムンド 石渡 洋行 助祭 7月17日（三浦海岸教会出身）

### 『助祭叙階』

ルドヴィコ茨木 西村 英樹 神学生 7月4日（鷺沼教会出身）  
 ルカ 上杉 優太 神学生 7月4日（静岡教会出身）

二俣川教会では、①司祭の召命とその成聖のために祈りを捧げること。②神学生の養成のために献金をすること。③司祭召命の運動、一粒会大会等への参加すること。④一粒会だより、沿革誌等の配布を行うこと。をメインに活動しています。

二俣川教会では「司祭召命のための祈り」や「司祭養成のための献金」をして頂いている方が、一粒会会員です。言い換えれば二俣川教会信徒全員が会員です。神学生養成のために、祈りと献金の協力を感謝致します。

### キリストを伝えたい



司祭召命

横浜教区一粒会

二俣川教会一粒会では、2018年より年2回、司祭を目指す神学生養成のために新規の「一粒会月定献金会員」の募集と一粒会特別献金の呼びかけを行っています。毎年多くの皆様に協力を頂き、下表のように月定献金会員と献金額は増え神学生養成に大きく寄与することが出来ました。皆様に感謝申し上げます。

2020年はコロナ禍の中、活動を自粛していますので、この紙面上での呼びかけとなります。

### 「一粒会月定献金会員」新規加入に協力をお願い致します。

月定献金袋は、ロビーに置いてありますのでご利用下さい。毎月一粒の麦を貯え長続きさせる気持ちを大切に、司祭を目指す神学生の為に協力をお願いします。（いつからでも始められます）

	2017年	2018年	2019年	2020年
会員数	109名	122名	143名	<b>新規会員募集中！</b>
献金額	92万円	123万円	149万円	



11月は「死者の月」です。今年は新型コロナウイルス感染症によって世界中でたくさんの方々が亡くなりました。それらの方々の死を心に留めながら、帰天された方々の為に祈り、主キリストのことばに希望と慰めを見出しましょう。



### すべての死者のための祈り

いつくしみ深い父よ、キリストの平和のうちに亡くなった人々、  
 あなただけがその信仰を知っておられるすべての死者を心に留めてください。  
 あなたの子であるわたしたちすべてが、神の母乙女マリア、使徒と聖人とともに、  
 あなたの国で、永遠の生命にあずかることができますように。  
 その国で、罪と死から永遠に解放された宇宙万物とともに、  
 主キリストによってあなたの栄光をたたえることができますように。  
 アーメン。

（「祈りの友」より）

\*\*\*\*\*

先月号の「マリア会通信」内のポリビア支援グループの送金金額に誤りがありました。

誤 219,873円 → 正 219,783円

校正が足りなかったことをお詫びいたします。申し訳ありませんでした。 広報委員会

\*\*\*\*\*

### 【編集後記】

コロナ禍での生活が半年以上になり、日々、コロナ関連の情報がたくさん入って来て、それらを上手に整理しながら受け入れることにもようやく慣れてきたように感じます。でも、この暑い夏の間には、コロナ感染症なのか熱中症なのかがわかりにくい症状に陥ったことがあり、精神的に辛い思いをしました。そんな風に落ち込んでいる人の心には、もう何も響いてこないのではと心配したのですが、幸いなことに、神様はお見捨てにならなかったようです。神父様が毎週発信して下さる「お説教」を活字で読んだり、9月から始まったミサの録画配信で、神父様のお声をパソコンで聞いたりできたことで、私は心の潤いを感じました。本当にありがたいことでした。神父様は『二十六聖人』に毎月「巻頭言」を書いてくださっていますが、この「巻頭言」から勇気をもらっているという方もたくさんおられることでしょう。先の見えない日々がこれからも続いてしまいそうですが、神様はきっとお力を与えてくださいますし、神父様は私たちを導く言葉を発信して下さいます。それらを、私は感謝を持って受け止めさせていただきたいと思います。最後に、広報委員会では、教会だよりの奉仕をして下さる方を募集しています。ホームページ作成経験のある方、広報誌に興味のある方は、是非、広報委員会まで。自薦、他薦を問いません。どうぞよろしくお願い致します。 (N. F. 記)